

31. 視覚障がい者へのデジタル録音による情報提供

グループ名：朗読ボランティアサークル テープはしもと

代表：堀切あけみ

① 活動の目的

昭和55年(1980年)発足以来、視覚障がい者に行政の情報をカセットテープに録音して提供してきました。しかし、パソコンの普及いわばデジタル化が進み、またカセットテープに関わる機器環境も厳しくなるなかで、いつまで情報提供の媒体としてカセットテープに頼ることができるのかという不安が徐々に大きくなってきました。

そのため、2011年ごろからCD(デージー図書)制作に関わる情報を得るため、日本ライトハウス情報文化センターを訪ねたり、和歌山点字図書館の方から関連する情報を教えていただきました。

和歌山点字図書館では2011年度テープ図書の延べ利用者が1,952人、デージー図書の延べ利用者が9,380人と大幅にデージー図書の利用者が増えてきています。また、デージー図書自体の種類が豊富になり、各地の点字図書館をはじめ全国的な組織「サピエ図書館」などが豊富なデジタル情報を提供しています。

このような状況下で、視覚障がい者の方々によりタイムリーで的確な情報を、今後も継続的に提供していくためにはデージー図書が最も有効な手段であるとの考えから、現在提供しているカセットテープでの情報を早期にデージー図書化すべく取り組むことにいたしました。

② 活動概要

2012.9 日本ライトハウス、和歌山点字図書館の方からの助言により決めた、デージー図書作成にかかわる機器構成に基づき、パソコン(1台)、オーディオキャプチャー(1台)、スピーカー(1台)、ヘッドホン(1台)、デージー図書制作ソフト(1セット)を購入。

2012.10 橋本市の広報をデージー図書にするには、橋本市秘書広報課との連携を欠かすことができないため、まず、そのプレゼン用に「広報はしもと」のデージー図書(簡略版)を作成。

2012.11.15 橋本市秘書広報課および橋本市社会福祉協議会の職員に、カセットテープからデジタル化への必要性、デージー図書とはどのようなものか、デージー図書として「広報はしもと」の制作から配布までの流れなどを資料に基づいて説明。(参加者 橋本市秘書広報課3名、橋本市社会福祉協議会1名、テープはしもと会員2名)

2013. 2 「広報はしもと3月号」のデジター図書を試行的に制作する。デジター図書作成と同時に、一部カセットテープで提供せざるを得ないケースが考えられるため、デジタルからカセットテープを作成する過程も同時にテストし、カセットテープを作成した。この制作の過程で問題がいくつか発生し、ソフト会社であるシナノケンシに問い合わせするなどして解決、整理した。
2013. 4. 26 「広報はしもと」をデジター図書にするうえでの環境整理のため、橋本市身体障害者連盟会長、橋本市秘書広報課、橋本市福祉課、橋本市社会福祉協議会のメンバー出席のもと打ち合わせを行った。
- ・現在利用されている方は高齢の方が多く、新しい機器への切り替えが難しい。
 - ・現在カセットテープを利用されている方には、できる限りデジター図書に切り替えていただく。そのためにはデジター図書再生機器の操作を体験し慣れていただく必要がある。
- 以上のことからデジター図書再生機器の操作説明会を開催して、視覚障がい者の方々に操作を体験していただくこととする。
2013. 5 前回の「広報はしもと3月号」試作時の問題事項に対処し、「広報はしもと6月号」のデジター図書を改めて制作する。評価としてはほぼ問題をクリアーできた。
2013. 6 市内中学校で教鞭をとられている視覚障がい者の社会科の先生から依頼があり、日本史・世界史に関する参考書を音訳し、デジター図書として提供した。
2013. 9. 5 シナノケンシから講師2名をお招きし、パソコンを使つてのデジター図書制作の講習会を行っていただいた。(参加者 橋本市秘書広報課2名、橋本市社会福祉協議会2名、テープはしもと会員15名)
2013. 9. 6 前日に引き続きシナノケンシの講師の方から、この日は視覚障がい者の方を対象にデジター図書再生機器の操作について講習を行っていただいた。
- 午前中は PTR2、午後は PTP1 の操作の講習を行った。(参加者 視覚障がい者6名、橋本市福祉課1名、橋本市社会福祉協議会2名、テープはしもと会員4名)
2013. 9 視覚障がい者の社会科の先生からの依頼で、ご自身が和歌山市内の中学校で行われた講演に対する生徒たちの感想文を音訳し、デジター図書として提供した。

③ 今後の課題

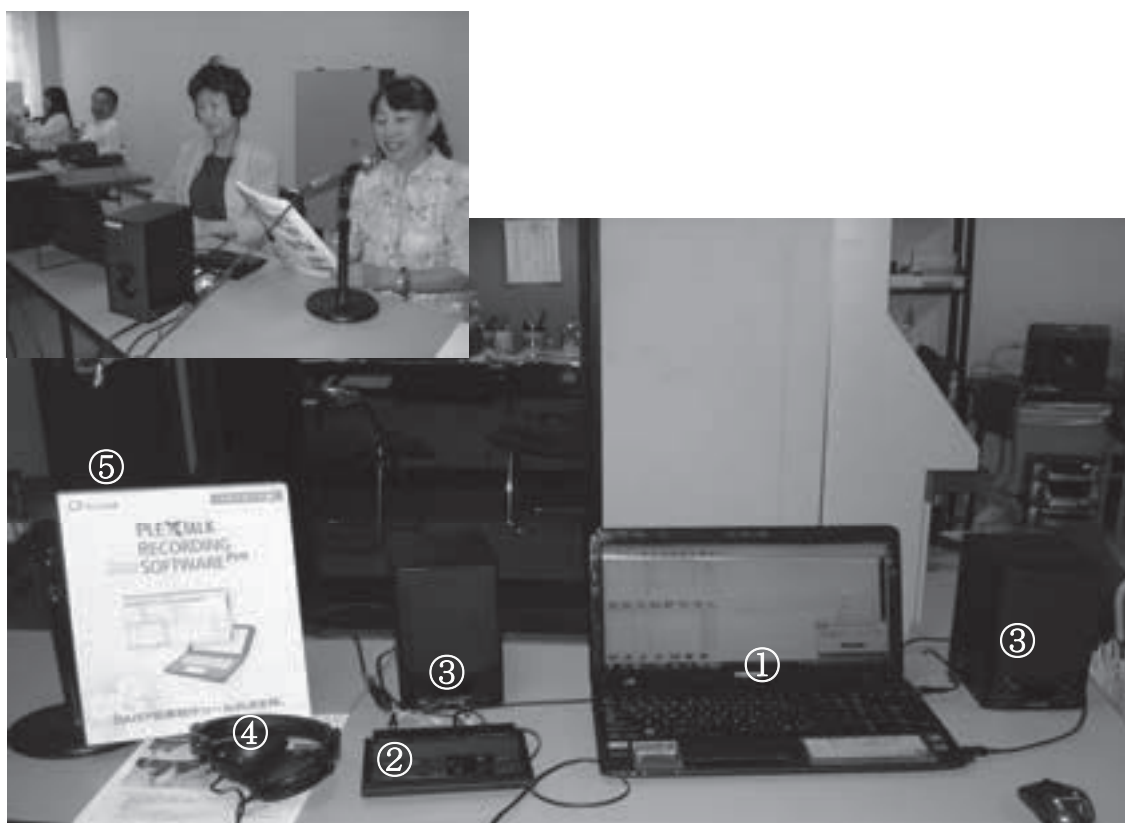
橋本市秘書広報課、橋本市社会福祉協議会と今まで以上に連携を図り、早期に開始時期と役割分担を決める。テープはしもと会員のデジタイズ制作のスキルアップを図る。

④ 決算報告書

単位:円

	費 目	金 額
収 入	大同生命厚生事業団助成金	100,000
	自己資金	21,441
	合 計	121,441
支 出	① パソコン (TOSHIBA dynabook T451/57DW)	75,180
	② オーディオキャプター(Roland UA33 TRI-CAPTURE)	13,390
	③ スピーカー (ONKYO WAVIO GX-70HD)	8,981
	④ ヘッドホン (SONY MDR-XB600)	4,870
	⑤ デジタイズ図書作成編集ソフト (シナノケンシ PRS Pro)	19,020
	合 計	121,441

購入機器等(①～⑤)とデジタイズ録音練習風景



□DAISY 図書の講習会(9月5日・6日)

シナノケンシから講師を招き、1日目は PRS Pro(DAISY 図書制作ツール)の講習



2日目は視覚障がい者の方々を対象に PLEXTALK の使い方について講習。
テーブルはしもとのメンバーも参加。



午前中は PTR2(右に掲載の機器)、
午後は PTP1(ポケット型)の講習を行った。